

Ⅵ 生涯スポーツ学研究科

<修士課程>

1 2021年度教育課程表

2 教育課程編成について

3 学位授与へのプロセス

4 教職課程について

<博士後期課程>

1 2021年度教育課程表

2 教育課程編成について

3 学位授与へのプロセス

＜修士課程＞

1. 2021年度教育課程表

生涯スポーツ学専攻 修士課程 専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1 年次		2 年次			
		前	後	前	後		
基礎教育領域							
生涯スポーツ学特論	講義	②				川 西 正 志	集中講義
生涯学習学特論	講義	②				谷 川 松 芳	集中講義
生涯スポーツ施策特論	講義			2		上 田 知 行	集中講義
地域スポーツ振興特論	講義			2		永 谷 稔	集中講義
スポーツ生理学特論	講義	②				井 出 幸二郎	
環境・スポーツ適応協関係特論	講義	②				花 井 篤 子	
スポーツ社会学特論	講義				2	川 西 正 志	隔年開講・集中講義
応用教育研究領域 スポーツ科学教育研究分野							
トレーニング科学特論	講義		2			高 田 真 吾	
スポーツバイオメカニクス特論	講義	2				山 本 敬 三	
スポーツコンディショニング特論	講義		2			吉 田 真	
アスレティックリハビリテーション特論	講義		2			吉 田 昌 弘	
スポーツ科学演習Ⅰ	演習	2				山 本 敬 三	スポーツ科学教育研究分野必修科目
						井 出 幸二郎	
						吉 田 真	
						吉 田 昌 弘	
スポーツ科学演習Ⅱ	演習		2			山 本 敬 三	スポーツ科学教育研究分野必修科目
						井 出 幸二郎	
						吉 田 真	
						吉 田 昌 弘	
応用教育研究領域 応用健康科学教育研究分野							
健康医科学特論	講義	2				沖 田 孝 一	
休養・睡眠学特論	講義	2				小 田 史 郎	
健康運動科学特論	講義		2			花 井 篤 子	
老年学特論	講義		2			小坂井 留 美	集中講義
スポーツ栄養学特論	講義	2				黒 田 裕 太	
応用健康科学演習Ⅰ	演習	2				小 田 史 郎	応用健康科学教育研究分野必修科目
						沖 田 孝 一	
						小坂井 留 美	
						花 井 篤 子	
応用健康科学演習Ⅱ	演習		2			小 田 史 郎	応用健康科学教育研究分野必修科目
						沖 田 孝 一	
						小坂井 留 美	
						花 井 篤 子	
応用教育研究領域 スポーツ教育学教育研究分野							
冬季スポーツ指導特論	講義		2			竹 田 唯 史	隔年開講・集中講義
ジュニアスポーツ指導特論	講義		2			大 宮 真 一	

科 目 名	授業 形態	年次・単位数				教 員 名	備 考
		1 年次		2 年次			
		前	後	前	後		
学 校 体 育 特 論	講義		2			増 山 尚 美	
野 外 活 動 特 論	講義	2				坂 谷 充	集中講義
障 が い 者 ス ポ ー ツ 指 導 特 論	講義			2		瀧 澤 聡	
障 が い 者 心 理 学 特 論	講義			2		佐 藤 至 英	
ス ポ ー ツ 心 理 学 特 論	講義	2				蓑 内 豊	隔年開講・集中講義
ス ポ ー ツ コ ー チ ング 特 論	講義	2				菊 地 はるひ	隔年開講
ス ポ ー ツ 運 動 学 特 論	講義			2		廣 田 修 平	
ス ポ ー ツ 教 育 学 演 習 I	演習	2				竹 田 唯 史	スポーツ教育学教育研究分野必修科目
						畠 中 智 志	
						川 西 正 志	
						瀧 澤 聡	
ス ポ ー ツ 教 育 学 演 習 II	演習		2			竹 田 唯 史	スポーツ教育学教育研究分野必修科目
						畠 中 智 志	
						川 西 正 志	
						瀧 澤 聡	
研究指導							
特 別 研 究 指 導 I	演習	←④→				井 出 幸二郎	集中講義
						畠 中 智 志	
						沖 田 孝 一	
						小 田 史 郎	
						川 西 正 志	
						黒 田 裕 太	
						小坂井 留 美	
						高 田 真 吾	
						瀧 澤 聡	
						竹 田 唯 史	
						永 谷 稔	
						花 井 篤 子	
						山 本 敬 三	
						吉 田 真	
						吉 田 昌 弘	
特 別 研 究 指 導 II	演習			←④→		井 出 幸二郎	集中講義
						畠 中 智 志	
						沖 田 孝 一	
						小 田 史 郎	
						川 西 正 志	
						黒 田 裕 太	
						小坂井 留 美	
						高 田 真 吾	
						瀧 澤 聡	
						竹 田 唯 史	
						永 谷 稔	
						花 井 篤 子	
						山 本 敬 三	
						吉 田 真	
						吉 田 昌 弘	

2. 教育課程編成について

1) 教育課程の基本構成

本研究科の教育課程は、氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの専門基盤的な大学院レベルの学識を養成するために基盤部分に「基礎教育領域」を、スポーツ科学に関する高い専門性と実践力を養成するために応用発展部分に「応用教育研究領域」を2階層で構成し、基礎から応用へと段階的に専門的学識の教育を図る2階層構造の教育課程編成とした。

関連する学問の基礎力に支えられて個別の応用的専門分野で独自課題の解決に取り組む教育課程を構想した。「基礎教育領域」には氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの教育研究に取り組む上で必要な科目を配置した。「応用教育研究領域」には、「スポーツ科学教育研究分野」「応用健康科学教育研究分野」「スポーツ教育学教育研究分野」の3分野を位置付け、それぞれの分野で、生涯スポーツの要素である各々の専門的知識を学修する。

①基礎教育領域

基礎教育領域では、本研究科が氷雪寒冷圏域を中心的対象において生涯スポーツ社会の推進を目指す上で、必要な基礎的理論を学び、さらに、氷雪寒冷圏域固有の気候・風土下にあるヒトの適応能力に関する基礎的理論を学修する。この領域で展開される科目は、修士の研究活動を行う上での学問的基盤となる。基礎教育領域には必修4科目、選択3科目を配置し、氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツの基盤的学識や素養を堅固にし、応用教育研究領域への発展につなげる。

②応用教育研究領域

基礎教育領域において氷雪寒冷圏域を中心的対象に置く生涯スポーツ学の基盤知識を備えたうえで、応用教育研究領域は特に冬季環境を根幹要素に包含する生涯スポーツ学を特化し、その深化を図る領域とする。「スポーツ科学教育研究分野」「応用健康科学教育研究分野」「スポーツ教育学教育研究分野」の3つの教育研究分野に分属して専門的知識・実践研究能力を高度化する。応用教育研究領域の3分野は氷雪寒冷圏域を中心的対象とする生涯スポーツに関わる独自の教育研究を推進し、生涯スポーツ学の体系化に資する。

スポーツ科学教育研究分野

本教育研究分野では、スポーツ科学の側面から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。生涯にわたってスポーツ付加価値を享受するため、あるいは競技スポーツのパフォーマンス向上のために体力向上や運動遂行の最適化が重要であり、自然科学的な分析・評価手法を修得させ、エビデンスに基づく運動とトレーニングを指導できる知識能力を身に付けさせる。

応用健康科学教育研究分野

本教育研究分野では、健康科学におけるスポーツの必要性から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。氷雪寒冷圏域には積雪寒冷や凍結などの特有の気象環境があり、その条件下で暮らす人々には独特の健康問題が存在する。スポーツ活動は、これらの健康問題に対して有益に働くことが多くは経験的に知られている。本教育研究分野では、これらの特有の健康問題に関する総合的な学識を明確に備えた上で、この気象条件下に暮らす人々の健康付加価値の

享受に役し、医療機関における有リスク・ハイリスクアプローチあるいは予防医学におけるポピュレーションアプローチの両側面に対して包括的に生涯スポーツの面から健康づくり支援を行うことのできる高度な人材を養成する。

スポーツ教育学教育研究分野

本教育研究分野では、生涯スポーツ学におけるスポーツ教育の必要性から生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する人材を養成する。本教育研究分野では、人々が健康で文化的な生活を営み、生涯にわたってスポーツ付加価値を享受するために、生涯スポーツ各種目の指導方法と実践技術の修得に関する理論を探究し、高度に実践応用できる人材を養成する。

2) 履修について

基礎教育領域の必修4科目を1年次前学期に受講する。1年次後学期（10月）に行われる「研究進捗状況報告会」にて研究計画の発表・検討を行った後に、応用教育研究領域のいずれかの分野に所属する。応用教育研究領域の各分野では、研究に必要な講義科目を1年次前学期から2年次前学期までに受講する。専門分野に偏重することなく、生涯スポーツに関する幅広い知識を修得するために、所属する主教育研究分野以外の教育研究分野で開講される科目からも最低1科目2単位以上履修する。応用教育研究領域の分野必修科目として、1年次の前・後学期に各分野で「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、研究に必要な知識の収集方法や測定・分析技術を修得する。修士論文作成は1年次前学期から2年次後学期までの必修科目「特別研究指導Ⅰ・Ⅱ」で行う。

3) 研究科の修了要件

必修6科目16単位、分野必修2科目4単位を含め合計32単位以上を修得し、修士論文の審査に合格することとする。標準修業年数は2年とし、最長4年間の在学を可能とする（長期履修制度）。

生涯スポーツ学研究科の修了要件

科目区分		修了必要単位数
基礎教育領域	必修科目	8単位
	選択科目	12単位以上
応用教育研究領域	選択科目	※ 所属分野以外の科目または基礎教育領域の選択科目から1科目2単位以上を取得すること
	分野必修科目	
特別研究指導（修士論文）		8単位
合 計		32単位以上

4) 社会人の履修について

大学設置基準第14条による教育方法の特例について、一部夜間の授業実施や土曜日・長期休業中における集中講義等に対応する。実施にあたっては、予定指導教員へ相談のこと。

3. 学位授与へのプロセス

入学後、研究目的・計画および研究指導教員に関する希望調査に基づき、教育研究分野並びに研究指導教員1名、副指導教員1名以上を暫定的に選定する。これらの研究指導教員が院生と個別に面談し、履修指導、研究目的・計画の指導を行う。

1年次には「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅰ・Ⅱ」を履修する過程において、研究計画を作成する。10月には研究計画の検討会として「研究進捗状況報告会」を公開で実施し、研究科全教員による研究計画に関する評価・指導を行う。これを踏まえて、所属する教育研究分野と研究指導教員および副指導教員を正式決定する。

1年次前・後学期にかけて研究指導教員および副指導教員による複数体制で「特別研究指導Ⅰ」を行い研究を進める。

2年次には、「特別研究指導Ⅱ」を履修して研究論文作成を進める。10月には論文作成に向けての検討会として「研究進捗状況報告会」を公開で実施し、全教員による論文内容の評価・指導を受ける。翌年1月末に修士論文を提出し、2月に学位論文の審査を受ける。

また、院生は国内外のスポーツ系、体育系、体力医学系の全国規模の学会にて、研究発表することを学位授与の要件とする。

修了までのスケジュール

1 年 次	入学直後	・講義要綱、大学院便覧に基づいたガイダンス ・教育研究分野を暫定的に選定 ・教育研究分野から研究指導教員1名、副指導教員1名以上を暫定的に選定
	前学期	・基礎教育領域の必須科目を履修 ・研究指導教員（暫定）による履修指導、研究目的および計画の指導 ・「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅰ」を履修
	後学期	・研究進捗状況報告会…研究計画の公開検討会（10月） →教育研究分野と研究指導教員および副指導教員を正式決定 ・研究指導教員および副指導教員による複数体制での研究指導 ・「特別研究指導Ⅰ」と所属分野の「演習Ⅱ」を履修
2 年 次	前学期	・研究指導教員および副指導教員による研究指導 ・「特別研究指導Ⅱ」を履修
	後学期	・研究指導教員および副指導教員による研究指導 ・「特別研究指導Ⅱ」を履修 ・研究進捗状況報告会…論文内容の評価・指導（10月） ・修士論文の完成、提出（1月） ・学位授与審査（2月）…論文審査、口述試験、発表会（公開審査）

学位・修士（スポーツ科学）授与

4. 教職課程について

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻では、下記に示す教育職員免許状取得のための課程を有している。

既に中学校教諭一種免許状（保健体育）又は高等学校教諭一種免許状（保健体育）を有している者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定められた科目を修得することにより、当該免許状の専修免許状を取得することができる。

専修免許状の取得を希望する者は、本研究科において、基礎資格として修士の学位を取得し、北翔大学大学院教職課程履修規程別表第2の規定に従って24単位以上を修得する必要がある。

（Ⅸ 諸規程・資料3 北翔大学大学院教職課程履修規程参照）

研 究 科	専 攻	免許状の種類及び教科
生涯スポーツ学研究科	生涯スポーツ学専攻	中学校教諭専修免許状（保健体育） 高等学校教諭専修免許状（保健体育）

<博士後期課程>

1. 2021年度教育課程表

生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数						教 員 名	備 考
		1 年次		2 年次		3 年次			
		前	後	前	後	前	後		
共通科目									
Sports Academic English	演習	②						C.B.サイモンズ	
専門科目 スポーツ科学研究分野									
ス ポ ー ツ 医 科 学 特 殊 研 究	講義	2						沖 田 孝 一	集中講義
ス ポ ー ツ 生 理 学 特 殊 研 究	講義	2						井 出 幸二郎	集中講義
スポーツバイオメカニクス特殊研究	講義	2						山 本 敬 三	集中講義
アスレティックリハビリテーション特殊研究	講義	2						吉 田 昌 弘	集中講義
ス ポ ー ツ 栄 養 学 特 殊 研 究	講義	2						黒 田 裕 太	集中講義
ス ポ ー ツ 心 理 学 特 殊 研 究	講義	2						畝 中 智 志	集中講義
専門科目 生涯スポーツ学研究分野									
生 涯 ス ポ ー ツ 学 特 殊 研 究	講義	2						川 西 正 志	集中講義
ス ポ ー ツ 老 年 学 特 殊 研 究	講義	2						小坂井 留 美	集中講義
休 養 ・ 睡 眠 学 特 殊 研 究	講義	2						小 田 史 郎	集中講義
健 康 運 動 科 学 特 殊 研 究	講義	2						高 田 真 吾	集中講義
アクアフィットネス特殊研究	講義	2						花 井 篤 子	集中講義
冬 季 ス ポ ー ツ 指 導 特 殊 研 究	講義	2						竹 田 唯 史	集中講義
研究指導									
特 別 研 究 指 導 I	演習	←④→					川 西 正 志	集中講義	
							沖 田 孝 一		
							竹 田 唯 史		
							井 出 幸二郎		
							小坂井 留 美		
							小 田 史 郎		
							山 本 敬 三		
							高 田 真 吾		
特 別 研 究 指 導 II	演習			←④→			川 西 正 志	集中講義	
							沖 田 孝 一		
							竹 田 唯 史		
							井 出 幸二郎		
							小坂井 留 美		
							小 田 史 郎		
							山 本 敬 三		
							高 田 真 吾		

生涯スポーツ学専攻 博士後期課程 専門科目

○単位は必修

科 目 名	授業 形態	年次・単位数						教 員 名	備 考
		1 年次		2 年次		3 年次			
		前	後	前	後	前	後		
特 別 研 究 指 導 III	演習					←④→		川 西 正 志	集中講義
								沖 田 孝 一	
								竹 田 唯 史	
								井 出 幸二郎	
								小坂井 留 美	
								小 田 史 郎	
								山 本 敬 三	
								高 田 真 吾	

2. 教育課程編成について

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程は、生涯スポーツ関連の研究者及び高度専門職業人の養成に重きをおいている。氷雪寒冷圏域を対象とする生涯スポーツ社会の発展のためには、スポーツや健康に関する科学的知識を備え、社会で指導的役割を担える人材の養成が必要である。このため、院生が教育・研究活動を通して専門的知識を修得し、課題設定能力、科学的分析能力、情報発信能力を身に付けることができるよう教育課程を編成している。

1) 教育課程の基本構成

生涯スポーツ学研究科生涯スポーツ学専攻博士後期課程の教育課程は「共通科目」「専門科目」「研究指導」の3つの科目区分で構成される。

共通科目として、必修科目「Sports Academic English」を配置する。スポーツ科学の研究者として必要な、学術コミュニケーションのための英語能力を養う。

専門科目として2つの研究分野を位置づけている。それぞれ、「スポーツ科学研究分野」と「生涯スポーツ学研究分野」としている。

①スポーツ科学研究分野

スポーツの科学的研究手法を教育研究し、スポーツ科学の理論化と高度化を目指す。特に地域特性を生かした冬季スポーツ種目を中心とする競技スポーツの科学的分析を通し、競技力向上にも貢献する。スポーツを医・科学の側面から捉え、スポーツ動作の理論化・高度化に貢献する人材を養成する。競技スポーツのパフォーマンス向上のためには、体力向上や運動遂行の最適化が重要であり、自然科学的な分析・評価手法を修得し、エビデンスに基づく運動とトレーニング指導ができる知識や技術を修得する。

②生涯スポーツ学研究分野

人文・社会学的手法や健康科学的手法を用いて、生涯スポーツの理論化・高度化に貢献する。氷雪寒冷圏域では、冬季の積雪寒冷により、スポーツ活動の実施を妨げる要因が存在し、住民には独特の健康問題が存在する。こうした諸問題をふまえ、健康で文化的な生活を営み生涯にわたってスポーツを楽しむための普及・指導方法並びに健康づくりを推進するための方策を研究する。当該分野では、これらの学識を明確に備えた上で、生涯スポーツの振興、発展に貢献できる知識や技術を修得する。

研究指導科目として、「特別研究指導Ⅰ～Ⅲ」を配置し、これを本教育課程の中核に位置づける。特別研究指導は、分野を横断してⅠからⅢへ連続性を持たせ、段階的に学位論文作成に向けて学際的な研究指導を行う。専門分野は多岐に広がりながらも、高度な研究を進めるプロセスは共有し、指導教員及び他分野を含めた副指導教員により一貫した研究指導を進める。

2) 修了要件

博士後期課程の修了要件は、以下の通りである。

- ①所定の修業年限以上在学し、必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得すること。
- ②学位授与審査に合格し、博士論文が受理されること。

3) 博士論文

研究内容や学位の質を担保するため、複数教員による博士論文の指導体制及び研究科教員による中間評価を実施できる体制とする。博士論文指導を行う科目「特別研究指導Ⅰ～Ⅲ」では、1名の院生に対して、研究指導教員1名と他分野を含めた副指導教員1名以上の複数教員が担当し、組織的に研究指導及び論文執筆指導を行う。また、円滑な学位授与や学位水準の質を担保するために、中間評価として、研究進捗報告会を毎年10月に実施し、院生にはプレゼンテーションと質疑応答を課す。研究進捗報告会では、院生は研究科の全担当教員によって、進捗状況が評価され、助言と指導が与えられる。複数教員による指導体制と中間評価によって、院生が学際的な視野を広げながら、計画的な研究活動が遂行できる教育研究環境を提供する。

4) 社会人の履修について

生涯スポーツ学研究科博士後期課程では、スポーツ競技者へのセカンドキャリア、コーチ・指導者へのリカレント教育、保健体育科教員への高度専門職化を達成していく視点から、社会人に対する研究教育体制を整えており、大学院設置基準第14条による教育方法の特例に基づいて、一部夜間授業の実施や、休業期間中における集中講義等を実施する。仕事をしながら大学院でのキャリアアップを希望する者が、科目履修及び研究指導を十分受けられる時間割上の工夫をする。実施にあたっては、予定指導教員に相談すること。

3. 学位授与へのプロセス

1) 課程修了のプロセス

生涯スポーツ学研究科博士後期課程では、博士論文の審査基準や審査方法を明記した審査手続きを定める。その審査手続きに基づいて厳格な審査を行い、適切な学位授与を執り行う。課程修了までの指導体制のプロセスは以下の通りである。

1 年次	・大学院便覧、講義要綱に基づいたガイダンス（4月） ・研究分野、研究指導教員及び副指導教員の決定（4月） ・必修科目「Sports Academic English」を履修（前学期） ・研究指導教員による履修指導と研究計画の指導 ・必修科目「特別研究指導Ⅰ」を履修（通年） ・調査・実験の開始。データ収集・分析の実施。 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
2 年次	・必修科目「特別研究指導Ⅱ」を履修（通年） ・学会等で研究発表及び学術誌への論文投稿 ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月）
3 年次 （最終年次）	・必修科目「特別研究指導Ⅲ」を履修（通年） ・研究進捗報告会で進捗状況を報告する（10月） ・論文原稿の提出（12月） 論文原稿の提出要件 ①筆頭著者として査読付き論文の掲載が2編以上決定されていること（※） ②国際学会会議での研究発表を1回以上行っていること ・学位審査：論文審査、口頭試問、発表審査会（1、2月） ・学位授与（3月） ・博士課程修了（3月） 修了要件 ①所定の修業年限以上在学し、必修4科目14単位と選択1科目2単位を含む合計16単位以上を修得 ②博士論文審査に合格し、博士論文が受理されること

※ 査読付きの学術論文については、掲載決定済みの論文も可とする（要掲載決定証明書）。2編の論文は筆頭著者とし、うち1編は日本スポーツ体育健康科学学術連合または日本学術会議に登録された関連する学会が発行する審査規定が明記された学術誌に掲載された論文とする。国際学術誌においては、スポーツ健康体育分野に関連し、査読基準が明確な国際学術団体が発行する論文であること。いわゆる「Predatory Journal」(捕食ジャーナル)を除く。

2) 博士論文審査体制

①基本方針

北翔大学大学院学則に基づき、所定の課程を修了し博士論文審査に合格した者に学位を授与する。学則に則って博士論文の執筆要領や審査基準、審査方法を明記した「博士論文作成要領」を作成し、それに基づいて指導する。博士論文審査基準や審査方法については、院生に明示する。

②審査体制

研究科委員会の中に博士論文ごとの審査委員会を置く。論文審査は予備審査と本審査の2回に分けて行われる。予備審査では、博士後期課程の専任教員で構成される審査員（主査1名と副査2名以上）によって論文審査と口頭試問を行う。予備審査では、提出された論文原稿が審査基準を満たしているか確認をし、必要な場合は、院生に原稿の修正を指示することができる。予備審査に合格した院生を対象に本審査を行う。本審査では、発表審査会が開催され、院生は博士論文の内容をプレゼンテーションし、質疑に応答する。博士後期課程の専任教員全員で審査し、可否についての判定を行う。その後、博士論文等審査結果報告書（博士論文の要旨、予備審査と本審査の審査結果とその要旨）をもって研究科委員会に報告される。研究科委員会では、報告書をもとに博士論文の可否判定を行う。研究科の判定結果は、研究科長から学長に伝達され、博士の学位授与が決定される。以上のプロセスにより、厳正な審査と透明性の高い評価を行う。

③審査委員会の構成

院生が博士論文原稿を提出した後に、研究科委員会の決定に基づき審査委員会を組織し、博士論文の審査を行う。審査委員会の体制は、以下の通りとする。

- ・主査1名、副査2名以上で構成する。
- ・主査は博士後期課程の研究指導教員とする。
- ・副査は博士後期課程の専任教員（合教員以上）とし、必要に応じて、1名は研究科委員会での承認を得て、審査対象論文に関わる専門分野の知見を有する外部の研究者に委嘱することができる。

④審査対象論文原稿の受理

予備審査における審査対象論文原稿の受理条件は、以下の通りとする。

- ・査読付きの学術論文2編以上を基に作成された学位申請の論文原稿であること。
- ・査読付きの学術論文については、掲載決定済みの論文も可とする（要掲載決定証明書）。2編の論文については、院生自身が筆頭著者であり、うち1編は日本学術会議に登録された学会が発行する審査規定が明記された学術誌に掲載された論文、または、国外において第三者審査委員が明記されている学会誌・学術雑誌に掲載された論文であること。
- ・研究テーマに関連する国際的な学術大会での研究成果の発表（口頭、ポスターともに可）を1回以上行っていること。ただし、部会等の学会内の特定地域での発表は含まない。

⑤審査基準

生涯スポーツ学研究科はスポーツ科学という複合領域を主たる学問とする研究科であり、論文の評価基準（合格基準）について、字数など形式要件を一律に定めることは困難である。そのため、審査体制、審査結果の学内外への情報公開などにより博士論文の質を担保する。また、学位授与と博士論文の水準を明確にするために、以下のガイドラインを定める。

- ・研究テーマに明確な新規性及び独創性（オリジナリティ）が認められるか。
- ・研究テーマの学術的意義が認められるか。
- ・博士論文が体系的に構成されているか。
- ・研究目的に適した研究方法であるか。
- ・先行研究の取り扱いが適切であるか。
- ・論旨が明確であり、一貫性があるか。
- ・学術研究における高い倫理性等を有しているか。
- ・研究科のディプロマ・ポリシーに沿い、博士号取得に相応しい人格を有しているか。

⑥単位取得後退学者の学位論文審査について

本大学院博士後期課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け退学（単位取得後退学）した者が博士論文を提出するときは、退学後1年以内に提出する場合は、学位論文審査料は全額免除、1年を超えて提出する場合は、半額免除となる。

⑦博士論文の公表について

本大学院が博士の学位を授与したときは、3か月以内にその博士論文の要旨と論文審査の結果の要旨をインターネットにより公表することとなっている。

また、博士の学位を授与された者は、1年以内に博士論文の全文をインターネットで公表しなければならない。なお、やむを得ない場合は論文の要約をもって代えることができるが、本大学院が求めに応じて論文の全文を閲覧に供する。